

中学生・二高生の皆さんへ 生活指導より No.4

4月10日、愛知県警広報課の公式ツイッター上で根拠のないウィルス対策が掲載されました。誤情報との指摘があり、直ちに削除と謝罪がなされました(毎日新聞4月13日)。また、コロナに関連した詐欺被害の相談件数が1万件を越えたとも報じられています(中日新聞4月8日)。不安や恐怖、混乱といった心の隙は、時に人の判断力を狂わせることがあります。さらには、人が人を攻撃することもあります。

感染症の歴史

約700年前、ヨーロッパでペストが大流行しました。当時ヨーロッパの人口は1億人おり、その中の2~3千万人が死亡したと推定されています。人口の三分の一に迫る数字です。

当時ユダヤ系民族は感染数や死者数が比較的少なかったそうです。パニック状態の民衆はそこに原因を求め、ユダヤ教徒を犯人に仕立て、虐殺や家の焼き討ちを行いました。「ユダヤ人が井戸に毒を投げ込んだ」などのデマが原因だといわれています。これは人災です。

また1881年~1990年台半ばには、エイズに対する偏見や差別といった人権侵害が横行し、社会問題となりました。当時は、発症した患者が急速に死に至るという症状が人々の恐怖に拍車をかけました。そして治療法も確立していないことで、正しい知識が置き去りのまま感染者を極端に排除しようとする「エイズパニック」が起こりました。

(※参考 ニッセイ基礎研究所提供資料 篠原拓也氏レポートより)

3月10日付けの朝日新聞デジタルに掲載された、ドラッグストア従業員の話です。マスクが品薄になったことにより、今まで気さくに会話していたお客さんの態度が数日で変わり、脅迫めいた要求や無理難題を突き付けてくるようになったとのこと。「毎日何十回も頭を下げノイローゼになりそう、コロナウィルスより人が怖い」という心境がつづられていました。

正しい知識と合理的な判断に基づいた行動を！

気を付けていても、コロナウィルスに感染する可能性はだれにでもあります。逆に気を付けていなくても運が良ければ感染しないかもしれません。しかし、何をしても同じというこ



フランスで中国人が経営する日本料理屋の壁面に書かれた落書き。「コロナ出ていけ」
(ハフポスト日本版 2月19日)

とではなく、**リスクにつながる行動をするかしないかによって、感染の確率は変わります。**
正しく恐れてリスクにつながる行為を自制することです。

また合理的に考えずむやみに恐れることで、偏見や差別が生まれることがあります。社会に偏見や差別が生じると「感染したことが知られれば非難される、家族や周囲も責められる」と考えてしまうことにつながります。それにより検査を躊躇(ちゅうちょ)する心境が生まれ、診断が遅れ、さらに感染拡大するという二次被害を産みます。これも人が生み出すものです。何より、差別・偏見は人権の侵害です。



何が大切なのか

11日の夜、ドイツのシュタインマイヤー大統領がドイツ国民に向けて演説を行いました。

「世界的な感染拡大は戦争ではない。国と国、兵と兵が相対しているのではなく、私たちの人間性が試されている。最高の姿を示そう。」

(朝日新聞デジタル 4月12日)

不安感や恐怖心とどう向き合うのか、それはその人の知恵や心の強さが決めるものだと思います。無知であることや自分の事ばかり考える弱い心、こういったコロナとは別の敵が私たち一人一人の中に潜んでいます。

ミュージシャンの星野源さんが「うちで踊ろう」という動画をネット上で配信して話題になっています。多くのアーティストを巻き込んで、心を温かくつなぎました。

自制や自粛はしなければなりません。しかし、我慢だけでは笑顔が陰ります。そんな中で、できないことよりできることに目を向けて、周囲に元気と笑顔を生み出す発信をした星野源さんの行動力は、人に勇気や感動を与えます。

中学生・二高生の皆さんにはこういった笑顔の発信者になってもらいたい。賢さと強さをもって。

「学ぼう、楽しもう、支えあおう、それぞれが別々の場所で」

★差別や偏見、いじめのない社会を目指して

自分や身近な人について、不当な差別やいじめなどのトラブルがあれば、一人で抱えずぜひ相談や協力を求めてください。

政府広報 新型コロナウイルスについて

人権への配慮について

人権イメージキャラクター KENまもる君 KENあゆみちゃん

みんなの人権110番
【受付時間】平日 8:30~17:15 **0570-003-110**